

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア文化特論	前期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-津波 高志	1年	授業終了後に教室にて受付	

学びの準備	ねらい 韓国の文化について、濟州島の事例を通して理解する。	メッセージ 現地調査で蒐集した資料や映像をパワーポイントを用いて紹介する。
	到達目標 国全体と一地域との関係を文化の側面から理解することを目指す。	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義全体の概要	
	2	分断国家の現状	
	3	韓国の歴史（1）	
	4	韓国の歴史（2）	
	5	韓国の言語と文字（1）	
	6	韓国の言語と文字（2）	
	7	濟州島の家族と親族（1）	
	8	濟州島の家族と親族（2）	
	9	濟州島の祖先祭祀（1）	
	10	濟州島の祖先祭祀（2）	
	11	濟州島の村落（1）	
	12	濟州島の村落（2）	
	13	濟州島の村落祭祀（1）	
	14	濟州島の村落祭祀（2）	
	15	まとめ	
16	テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 参考文献として、論文の抜き刷りを配布する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 講義への出席状況もテストと同程度に評価する。
-------	----------------------------------

学びの実践	評価 韓国における地方文化と国レベルの文化のギャップについての理解が測られる。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語学特論	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	1年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この講義では、『ことばと思考』をテーマに取り扱う。認知言語学における最新の英語論文を、じっくり丁寧に読み上げることで、研究の進め方（研究手法・分析方法）ならびに論文の書き方を学び、個人の研究テーマを見いだすきっかけにしたい。受講者の希望に応じ、講義内容を変更する場合もある。	メッセージ
	到達目標 この講義を受講し理解した学生は、研究を進める上で必要なロジックや研究手法、ならびに英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」を身につけることができる。また、個人の研究テーマの足がかりを見つける事ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	講義内で適宜指示する
	2	認知言語学とは	講義内で適宜指示する
	3	ことばと思考① 【精読： テーマと結果】	講義内で適宜指示する
	4	ことばと思考① 【精読： 研究手法】	講義内で適宜指示する
	5	ことばと思考① 【ディスカッション・発展的研究の模索】	講義内で適宜指示する
	6	ことばと思考② 【精読： テーマと結果】	講義内で適宜指示する
	7	ことばと思考② 【精読： 研究手法】	講義内で適宜指示する
	8	ことばと思考② 【ディスカッション・発展的研究の模索】	講義内で適宜指示する
9	色彩語が視覚に与える影響 【精読： テーマと結果】	講義内で適宜指示する	
10	色彩語が視覚に与える影響 【精読： 研究手法】	講義内で適宜指示する	
11	色彩語が視覚に与える影響 【ディスカッション・発展的研究の模索】	講義内で適宜指示する	
12	言語がモノ認知に与える影響 【精読： テーマと結果】	講義内で適宜指示する	
13	言語がモノ認知に与える影響 【精読： 研究手法】	講義内で適宜指示する	
14	言語がモノ認知に与える影響 【ディスカッション・発展的研究の模索】	講義内で適宜指示する	
15	個別研究テーマについてのディスカッション①	講義内で適宜指示する	
16	個別研究テーマについてのディスカッション②	講義内で適宜指示する	
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義内にて適宜配布するので、テキストの購入は必要ありません。		
	学びの手立て 履修の心構えとして、以下注意してください。 ・常に疑問を持ち、アクティブに考え、講義に参加して下さい。 ・お互いに実りのあるディスカッションができるような風通しの良いクラス作りを心がけて下さい。		
	評価 【平常点：30点】 講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度 【課題：30点】 【発表：40点】		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「社会言語学特論」
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語教育学特論 I	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	クレイグ K ジャコブソン	1年	Office: 5-421 mail: jacobsen@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい This class is an introduction to English language teaching.	メッセージ Students should do their best but not be too troubled if they are unable to understand everything in the readings.
	到達目標 This course is designed to provide a survey of issues related to teaching English as an international languages with special emphasis on teaching English in Japan	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Introduction and Registration	
	2	English as an international language	
	3	English as an international language	
	4	Bilingual users of English	
	5	Bilingual users of English	
	6	The native/non-native dichotomy	
	7	The native/non-native dichotomy	
	8	Standards for English as an international language	
9	Culture in teaching English as an international language		
10	Culture in teaching English as an international language		
11	Culture in English language textbooks		
12	Language learning and identity		
13	Language learning and identity		
14	Teaching methods and English as an international language		
15	Teaching methods and English as an international language		
16	Student presentations and course evaluation		
	テキスト・参考文献・資料など McKay, S. L. (2002). Teaching English as an International Language. Oxford: Oxford University Press. Other readings provided by the instructor. Papers should conform to the APA Publication Manual		
	学びの手立て Students should do the readings and answer the questions in the reading guide before coming to class. Students should also try to develop a research paper topic related to their thesis topic.		
	評価 Students will be evaluated based on attendance, participation and a research paper.		

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語教育学特論II
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語教育学特論Ⅱ	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	1年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい To learn theories and methods of English teaching	メッセージ
	到達目標 (1) To acquire the basic knowledge and skills of English teaching (2) To improve English proficiency through in- and out-of-class assignments in English	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	
	2	Textbook reading & Discussion	
	3	Textbook reading & Discussion	
	4	Textbook reading & Discussion	
	5	Textbook reading & Discussion	
	6	Textbook reading & Discussion	
	7	Textbook reading & Discussion	
	8	Mid-term Exam	
	9	Textbook reading & Discussion	
	10	Textbook reading & Discussion	
	11	Textbook reading & Discussion	
	12	Textbook reading & Discussion	
	13	Textbook reading & Discussion	
	14	Textbook reading & Discussion	
	15	Textbook reading & Discussion	
	16	Final Exam	
	テキスト・参考文献・資料など Will be announced in class.		
	学びの手立て (1) Text must be read thoroughly before class. (2) Class will be conducted in English.		
	評価 Class Participation 40% Tests 30% Assignments 30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語論文の書き方 I	前期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	1 年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義は、英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」と「論理的思考」を意識し、自分の主張を論述する方法の習得を目的とする。「なんとなく興味のある事」を「研究に値する課題」として設定する方法・仮説の立て方ならびに検証方法・文献の引用の仕方など、英語の論文を書くにあたって必要な知識をステップ毎に学ぶ。受講者の希望に応じ、講義内容を変更する場合もある。	
到達目標	この講義を受講し理解した学生は、英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」と「論理的思考」を身につける事ができる。また、修士論文に必要な「課題設定・仮説設定・検証方法」などの知識が得られる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	講義内で適宜指示する
	2	英語論文の書き方概要	講義内で適宜指示する
	3	研究テーマの設定の仕方・書き方①	講義内で適宜指示する
	4	研究テーマの設定の仕方・書き方②	講義内で適宜指示する
	5	研究テーマの設定の仕方・書き方③	講義内で適宜指示する
	6	仮説の立て方・書き方①	講義内で適宜指示する
	7	仮説の立て方・書き方②	講義内で適宜指示する
	8	検証の仕方(検証・実験手法)・書き方①	講義内で適宜指示する
	9	検証の仕方(検証・実験手法)・書き方②	講義内で適宜指示する
	10	先行研究の見つけ方・引用の仕方・書き方	講義内で適宜指示する
	11	個人の研究テーマ・仮説・検証の仕方に関するディスカッション①	講義内で適宜指示する
	12	個人の研究テーマ・仮説・検証の仕方に関するディスカッション②	講義内で適宜指示する
	13	個人の研究テーマ・仮説・検証の仕方に関するディスカッション③	講義内で適宜指示する
14	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)③	講義内で適宜指示する	
15	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)②	講義内で適宜指示する	
16	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)③	講義内で適宜指示する	
	テキスト・参考文献・資料など		
	講義開始時に指示する。		
	学びの手立て		
	履修の心構えとして、以下注意してください。 ・常に疑問を持ち、アクティブに考え、講義に参加して下さい。 ・お互いに実りのあるディスカッションができるような風通しの良いクラス作りを心がけて下さい。		
	評価		
	【平常点：30点】 講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度		
	【課題：30点】		
	【発表：40点】		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「英語論文の書き方 II」
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語論文の書き方Ⅱ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	1年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 「英語論文の書き方Ⅰ」に続き、英語の論文を書く為に必要な知識を習得する事を目的とする。分析方法の書き方、仮説に対する結果の書き方、結論・考察の書き方をステップ毎に学ぶ。受講者の希望に応じ、講義内容を変更する場合がある。	メッセージ
	到達目標 この講義を受講し理解した学生は、英語の論文を書く為に必要な「批判的思考」と「論理的思考」を身につける事ができる。また、修士論文に必要な「分析方法・結果報告のしかた・結果や考察の書き方」などの知識が得られる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	講義内で適宜指示する
	2	英語論文の書き方概要	講義内で適宜指示する
	3	分析方法①	講義内で適宜指示する
	4	分析方法②	講義内で適宜指示する
	5	結果報告の仕方①	講義内で適宜指示する
	6	結果報告の仕方②	講義内で適宜指示する
	7	仮説に対する結果の書き方①	講義内で適宜指示する
	8	仮説に対する結果の書き方②	講義内で適宜指示する
	9	結論・考察の書き方①	講義内で適宜指示する
	10	結論・考察の書き方②	講義内で適宜指示する
	11	個人の研究テーマに関するディスカッション①	講義内で適宜指示する
	12	個人の研究テーマに関するディスカッション②	講義内で適宜指示する
	13	個人の研究テーマに関するディスカッション③	講義内で適宜指示する
	14	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)①	講義内で適宜指示する
	15	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)②	講義内で適宜指示する
	16	研究テーマに関連する先行研究の検証(批判的思考と論理的思考の意識)③	講義内で適宜指示する
	テキスト・参考文献・資料など 講義開始時に指示する。		
	学びの手立て 履修の心構えとして、以下注意してください。 ・常に疑問を持ち、アクティブに考え、講義に参加して下さい。 ・お互いに実りのあるディスカッションができるような風通しの良いクラス作りを心がけて下さい。		
	評価 【平常点：30点】 講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度 【課題：30点】 【発表：40点】		

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文の書き方の基礎的知識を学んだ後は、各自のテーマに沿った卒業論文に取り組んで下さい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米演劇特論 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	1年		

学びの準備	ねらい 本稿では英米の作家によって書かれた劇作品の精読を通して、演劇というジャンルにおける表現形式の特徴を理解し、その読解に必要な基礎知識を習得することを目的とする。「英米演劇特論 I」では、W. シェイクスピアの悲劇と喜劇をそれぞれ一作品ずつ取り上げる。	メッセージ 受講生は毎回、指定された範囲についてまとめたレジュメを用意し、重要なせりふを和訳する。
	到達目標 演劇作品の読解に必要な基礎力を身に付けることを目標にする。英語を出来る限り正確に読む力を鍛えると同時に、イギリスにおける演劇の歴史的文化的背景について理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義説明・オリエンテーション	
	2	作品①について概説	
	3	作品①の精読	
	4	作品①の精読	
	5	作品①の精読	
	6	作品①の精読	
	7	作品①の精読	
	8	先行研究論文の読解	
	9	作品②について概説	
	10	作品②の精読	
	11	作品②の精読	
	12	作品②の精読	
	13	作品②の精読	
	14	作品②の精読	
	15	先行研究論文の読解	
	16	レポート提出	
	テキスト・参考文献・資料など The Riverside Shakespeare, ed. by G. Blakemore Evans (Houghton Mifflin, 1997), その他、初回の講義にて通知する。		
	学びの手立て 英和辞典、英英辞典を丁寧に引くように心がけること		
	評価 授業への貢献度と、学期末レポートによって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米詩特論 I	後期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	1年		

学びの準備	ねらい 本稿では英米詩の精読を通して、押韻や比喻の使い方など、詩の読解に必要な基礎知識を習得することを目的とする。「英米詩特論 I」ではイギリス・ルネッサンス期の詩を読む。	メッセージ 受講生は指定された内容について調べ、レジュメを用意したうえで授業に臨む。その際、辞書をしっかり引いておくこと。
	到達目標 英米詩の読解に必要な基礎知識を身に付けることを目標にする。特に比喻表現においては一つの言葉に複数の意味が含まれるので、英語の辞書を丹念に調べ、多義的な解釈の可能性を踏まえつつ、英語を出来る限り正確に読む力を鍛える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義説明・オリエンテーション
	2	詩のコンベンション（約束事）について概説
		時間外学習の内容
	3	Christopher Marlowe 精読 (1)
	4	Christopher Marlowe 精読 (2)
	5	Christopher Marlowe 精読 (3)
	6	Christopher Marlowe 精読 (4)
	7	W. Shakespeare 精読 (1)
	8	W. Shakespeare 精読 (2)
	9	W. Shakespeare 精読 (3)
	10	W. Shakespeare 精読 (4)
	11	John Donne 精読 (1)
	12	John Donne 精読 (2)
	13	John Donne 精読 (3)
	14	John Donne 精読 (4)
	15	先行研究論文の読解
	16	レポート提出
	テキスト・参考文献・資料など Penguin Book of Renaissance Verse, ed. by David Norbrook (Penguin Classics, 1993)	
	学びの手立て	
	評価 授業への貢献度と、学期末レポートにより評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 作品について話し合うことによって、文学と英米文化の理解を深める。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米小説特論 I	前期	火 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	1年	研究室：9-501 電話：098-893-6586 E-mail: sminkey@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、学生が様々な短編小説を読み、それぞれの作品について話し合うことによって、文学と英米文化の理解を深める。一つの作品について、3ページぐらいの作文を書く。授業は100%英語で行われるが、予習として、日本語訳を参照しても構わない。	メッセージ This class will be conducted entirely in English! Reading and discussing literature is one of the best ways to improve your English. Let's have fun discussing various short stories and novels. The difficulty of the class will be adjusted to match student ability.
	到達目標 学生は文学の要素（プロット、登場人物、語り方、象徴、テーマなど）と文学作品において使用されている様々な英語表現を理解し、文学作品について理解度を深める。最終目標として、作品分析及び論文の正しい書き方を学びつつ、しっかりとした構成を持つ作文が書けることを目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	クラスの紹介
	2	文学とは何か？ 文学の要素について
	3	ラングストン・ヒューズの「Thank You, Ma' am」について テストと話し合い
	4	「Thank You, Ma' am」について 登場人物とテーマを中心に
	5	リチャード・ライトの『Black Boy』からの抜粋 テストと話し合い
	6	リチャード・ライトの『Black Boy』からの抜粋について テーマを中心に
	7	ジェイムズ・ジョイスの紹介
	8	ジェイムズ・ジョイスの「Eveline」について テストと話し合い
	9	ジェイムズ・ジョイスの「Eveline」について 象徴と文体を中心に
	10	ジェイムズ・ジョイスの「Counterparts」について テストと話し合い
	11	ジェイムズ・ジョイスの「Counterparts」について 語り方と視点とテーマを中心に
	12	論文の正しい書き方について
	13	締め切り：作文の下書き 学生の作文について個人的な指導
	14	学生の作文について個人的な指導
15	締め切り：作文	
16	まとめ	
テキスト・参考文献・資料など We will be reading short stories by Langston Hughes, Richard Wright, James Joyce, and others. Copies of stories will be provided. Students are free to consult Japanese translations of the texts outside of class, but the class discussions will be conducted in English. 参考書・参考資料等 「ダブリン市民」ジェイムズ・ジョイス、安藤一郎訳		
学びの手立て We will read and discuss stories together. Students should develop their own ideas and interpretations of the stories, and take a position on one of the stories in a short paper.		
評価 学生に対する評価 総合評点の構成は以下の通りとする。 (1) 授業における発言とノート 10% (2) テスト 30% (3) 作文 (準備、下書きなどを含めて) 60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 英米小説特論 II
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米小説特論Ⅱ	後期	火7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	1年	研究室：9-501 電話：098-893-6586 E-mail: sminkey@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、学生がJane Eyreという長編小説を読み、その作品について話し合うことによって、文学と英米文化の理解を深める。その作品について、5ページぐらいの論文を書く。授業は100%英語で行われるが、予習として、日本語訳を参照しても構わない。	メッセージ This class will be conducted entirely in English! Reading and discussing literature is one of the best ways to improve your English. Let's have fun discussing a novel. The difficulty of the class will be adjusted to match student ability.
	到達目標 学生は文学の要素（プロット、登場人物、語り方、象徴、テーマなど）と文学作品において使用されている様々な英語表現を理解し、文学作品について理解度を深める。最終目標として、作品分析及び論文の正しい書き方を学びつつ、しっかりとした構成を持つ作文が書けることを目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	授業の紹介
	2	文学の要素について（英米小説特論Ⅰの内容を復習）
		時間外学習の内容
	3	シャーロット・ブロンテの紹介
	4	Parts 1 and 2 について テストと話し合い
	5	Parts 1 and 2 について話し合い 登場人物と語り方を中心に
	6	Parts 3 and 4 テストと話し合い
	7	Parts 3 and 4 について話し合い 象徴と文体を中心に
	8	原作の抜粋を読んでみる
	9	Part 5 テストと話し合いPart 5 について
	10	Part 5 について話し合い テームを中心に
	11	『Jane Eyre』について 批評を中心に
	12	論文の正しい書き方について
	13	締め切り：作文の下書き 学生の作文について個人的な指導
	14	学生の作文について個人的な指導
	15	締め切り：作文
	16	まとめ
	テキスト・参考文献・資料など テキスト： 1. Jane Eyre: Level 6. Oxford Bookworms. 2. 抜粋のコピーや文学についてのプリントを配布する。 参考書・参考資料等： 1. 『ジェイン・エア』 シャーロット・ブロンテ、河島 弘美訳	
	学びの手立て We will read and discuss various short stories. Students will also chose a novel to read and write a paper on.	
	評価 学生に対する評価 総合評点の構成は以下の通りとする。 (1) 授業における発言とノート 10% (2) テスト 30% (3) 論文（準備、下書きなどを含めて） 60%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 英米小説特論Ⅰ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米批評特論 I	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	1年		

学びの準備	ねらい 文学批評の理論を、テキストの精読を通して習得する。	メッセージ
-------	----------------------------------	-------

到達目標	
------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要説明	
	2	Introduction: What is Literature ① (以下、テキストの目次の通り)	
	3	Introduction: What is Literature ②	
	4	Introduction: What is Literature ③	
	5	Introduction: What is Literature ④	
	6	The Rise of English ①	
	7	The Rise of English ②	
	8	The Rise of English ③	
	9	The Rise of English ④	
	10	Phenomenology, Hermeneutics, Reception Theory ①	
	11	Phenomenology, Hermeneutics, Reception Theory ②	
	12	Phenomenology, Hermeneutics, Reception Theory ③	
	13	Phenomenology, Hermeneutics, Reception Theory ④	
	14	Structuralism and Semiotics ①	
	15	Structuralism and Semiotics ②	
16	Structuralism and Semiotics ③		
テキスト・参考文献・資料など Terry Eagleton, Literary Theory: An Introduction			
学びの手立て			
評価 期末レポートを課す。成績は、原則として、予習の達成度50%、レポート50%とする。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米批評特論Ⅱ	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	1年		

学びの準備	ねらい 文学批評の理論を、テキストの精読を通して習得する。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要の説明	
	2	Post-Structuralism ① (以下、テキストの目次の通り)	
	3	Post-Structuralism ②	
	4	Post-Structuralism ③	
	5	Post-Structuralism ④	
	6	Post-Structuralism ⑤	
	7	Psychoanalysis ①	
	8	Psychoanalysis ②	
	9	Psychoanalysis ③	
	10	Psychoanalysis ④	
	11	Psychoanalysis ⑤	
	12	Conclusion: Political Criticism ①	
	13	Conclusion: Political Criticism ②	
	14	Conclusion: Political Criticism ③	
15	Conclusion: Political Criticism ④		
16	Conclusion: Political Criticism ⑤		
テキスト・参考文献・資料など Terry Eagleton, <i>Literary Theory: An Introduction</i>			
学びの手立て			
評価 期末レポートを課す。成績は、原則として、予習の達成度50%、レポート50%とする。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米文化特論	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	クワイグ K ジェコブソン	1年	Office: 5-421 mail: jacobsen@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい This course is designed to assist students in developing their skills in understanding and analyzing British and American culture.	メッセージ If possible, students should choose a research topic related to their thesis.
	到達目標 Students will improve their understanding of culture in English speaking countries, especially in the UK and the United States, and especially in how cultures in these countries is related to the teaching of English.	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Registration and Course Introduction	Reading
	2	Defining Culture	Reading
	3	Language and Culture	Reading
	4	Origins of British Culture I	Reading
	5	Origins of British Culture II	Reading
	6	Modern British Culture I	Reading
	7	Modern British Culture II	Reading
	8	International Spread of British Culture	Reading
	9	Origins of American Culture I	Reading
	10	Origins of American Culture II	Reading
	11	The Dominant American Culture	Reading
	12	American Sub Cultures I	Reading
	13	American Sub Cultures II	Reading
	14	British and American Culture Returns Home	Preparation for Presentation
15	Individual Consultation on Research Paper	Preparation for Presentation	
16	Student Presentations		
	テキスト・参考文献・資料など Readings provided by instructor. Students should prepare their written work in accordance with the APA Publication Manual.		
	学びの手立て Students should be prepared to work independently outside of class on their research paper and bring questions to class that they might have on that paper.		
	評価 Students will be evaluated on attendance, participation, a research paper and an oral presentation.		

学びの継続	次のステージ・関連科目 アジア文化特論
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米文学特殊研究 I A	通年	水 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	1年		

学びの準備	ねらい 本演習では、まず修士論文執筆のための技術的な必須事項を確認した後、個々の受講生の論文テーマの設定、資料の収集、アウトラインの作成等の作業に対して指導を行う。また同時に、実際にアメリカ文学の作品を熟読し、作品のテーマや手法を中心に考察し、併せて作品に関する批評を検討する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て 修士論文執筆に関する指導は、必要に応じて随時行う。実際の講義においては、アフリカ系アメリカ人の文学を中心に、「二重意識」の問題に焦点を当てた作品である、Richard Wright著『Native Son』、Ralph Ellison著『Invisible Man』、Toni Morrison著『The Bluest Eye』等の講読を予定している。但し、受講生の修士論文執筆予定の分野からの作品講読も、個別に相談の上、検討する。
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米文学特殊研究 I B	通年	月 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て

学びの継続	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語教育実習 I	後期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	1年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい To improve teaching skills.	メッセージ
-------	------------------------------------	-------

到達目標	(1) To acquire basic knowledge of second language acquisition and English teaching. (2) To acquire basic teaching skills through class observations and teaching practice. (3) To improve English proficiency through reading assignments and class discussions.
------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	
	2	Textbook reading & Discussion	
	3	Textbook reading & Discussion	
	4	Textbook reading & Discussion	
	5	Textbook reading & Discussion	
	6	Textbook reading & Discussion	
	7	Textbook reading & Discussion	
	8	Quiz	
	9	Class observation & discussion	
	10	Class observation & discussion	
	11	Class observation & discussion	
	12	Class observation & discussion	
	13	Workshop	
	14	Teaching Practice 1	
15	Teaching Practice 2		
16	Reflection		
	テキスト・参考文献・資料など Will be announced in class.		
	学びの手立て Students must read assigned chapters before class.		
	評価 Class participation 30% Quizzes 30% Assignments 40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語教育実習Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	1年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	初・中・上級の日本語教科書を教材研究し指導案を作成していく。そして、教材作成の方法や評価方法他を学んでいく。その後、模擬授業を経て、教壇に立つ。教壇実習は、本学で開講されている日本語クラスや夏期日本語研修プログラムか海外で行う。その場合は、台湾の東海大学か中国の福建師範大学、あるいはタイのパンヤーンピワット経営大学で、3週間の実習を行うことになる。	教壇実習が修士論文の内容と繋がるように実施していきましょう。
到達目標	初・中・上級の日本語教科書を教材研究し、指導案の作成ができるようになる。教壇に立ち、留学生のための日本語クラスで実習を経験し、将来は、日本国内外でも働ける人材として活躍できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義概要の説明等）	
	2	外国語教授法の復習	
	3	初級クラスの指導法及び指導案作成	
	4	初級クラスの模擬授業	
	5	中・上級クラス（文法）の指導法及び指導案作成	
	6	中・上級クラス（読解）の指導法及び指導案作成	
	7	中・上級クラス（作文）の指導法及び指導案作成	
	8	中・上級クラス（聴解・会話）の指導法及び指導案作成	
	9	中・上級クラス（日本/沖縄事情）の指導法及び指導案作成	
	10	中・上級クラスの模擬授業	
	11	年少者のための指導法（他府県の事例）	
	12	年少者のための指導法（沖縄県の実例）	
	13	生活者のための日本語教育（他府県の事例）	
	14	生活者のための日本語教育（沖縄県の実例）	
	15	初級実習	
	16	中・上級実習	
	テキスト・参考文献・資料など		
	授業開始時に指示する。 ・津田塾大学言語文化研究所（2006）『第二言語学習と個別性—ことばを学ぶ一人ひとりを理解する—』春風社 ・土屋千尋編著（2005）『つたえあう日本語教育実習 外国人集住地域でのこころみ』明石書店 ・畑佐由紀子編（2008）『外国語としての日本語教育—多角的視野に基づく試み—』くろしお出版		
	学びの手立て		
	事前に日本語教育の関する文献及び資料を熟読する。課題に関して文献調査しまとめ、必要に応じて教育現場等を訪問し、参考にする。教壇実習の前に、本学で開講されている初・中・上級クラスの授業観察もすると効果的である。		
	評価		
	出席率・授業への貢献度・課題への取り組み・模擬授業・教壇実習などから総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 実習の経験を修士論文に活かし、まとめていく。県内の日本語学校で経験を積んで行くことも、次のステージへの手助けとなりうる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語教育特殊研究 I A	通年	月 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	1年	研究室を訪問とき、必ず事前に予約すること。e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 第二言語の習得と教育に関する研究を概観しながら、この分野の基礎的知識と研究方法を身につけることを目的とする。	メッセージ 文献の精読や発表、ディスカッションなどを通して第二言語の習得と教育への理解を深めていく。開講言語：英語・日本語。
	到達目標 前期では、この分野について自立して研究を行うための必要な知識とスキルを習得する。後期では、まず、履修者各自が研究したいテーマを決定し、リサーチクエスションと仮説を立てる。次に、文献を収集し、調査方法を考える。最後に、効率的に調査を実施するための具体的な研究計画書を作成する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	各回の授業ごとに指示する
	2	第二言語習得とは	各回の授業ごとに指示する
	3	言語習得に関する俗説	各回の授業ごとに指示する
	4	母語習得	各回の授業ごとに指示する
	5	幼児期のバイリンガリズム	各回の授業ごとに指示する
	6	第二言語の学習環境	各回の授業ごとに指示する
	7	対照分析・エラー分析	各回の授業ごとに指示する
	8	中間言語	各回の授業ごとに指示する
	9	言語転移	各回の授業ごとに指示する
	10	第二言語学習者の個人差	各回の授業ごとに指示する
	11	行動主義的・生得的言語習得観	各回の授業ごとに指示する
	12	認知心理的・社会文化的アプローチ	各回の授業ごとに指示する
	13	第二言語の学習と教育	各回の授業ごとに指示する
	14	観察研究	各回の授業ごとに指示する
	15	教授方法の提案	各回の授業ごとに指示する
	16	前期のまとめ	各回の授業ごとに指示する
	17	学術論文作成の基本	各回の授業ごとに指示する
	18	研究テーマの設定	各回の授業ごとに指示する
	19	先行研究の調べ方と検討方法	各回の授業ごとに指示する
	20	リサーチ・クエスションと仮説の立て方	各回の授業ごとに指示する
	21	アウトラインの作成	各回の授業ごとに指示する
	22	先行研究の文献レビュー：文献探索と選択	各回の授業ごとに指示する
	23	先行研究の文献レビュー：文献の読み込み	各回の授業ごとに指示する
	24	先行研究の文献レビュー：先行研究の批判	各回の授業ごとに指示する
	25	自分の研究課題の位置づけ	各回の授業ごとに指示する
	26	研究方法の検討	各回の授業ごとに指示する
	27	調査実施と手順	各回の授業ごとに指示する
	28	研究倫理	各回の授業ごとに指示する
	29	研究計画の立案	各回の授業ごとに指示する
30	研究計画の作成	各回の授業ごとに指示する	
31	後期のまとめ・経過報告と今後の予定	各回の授業ごとに指示する	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 配布資料（英語・日本語）</p>
	<p>学びの手立て ①課題提出期限の厳守。②毎回課題論文を読んだ上で議論に積極的に参加する。自分なりの意見をもって授業に挑むための準備を行うことが必要。③学期末レポートの発表と提出があるので、早めに準備を行い、先行研究を調べておくことを強く勧める。</p>
	<p>評価 授業参加態度（30%）、口頭発表(30%)、レポート(40%)による総合評価。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 「言語教育特殊研究ⅡA」</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語教育特殊研究 I B	通年	火 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	クレイグ K ジャコブソン	1年	e-mail: jacobsen@okiu.ac.jp phone: 098-893-1699	

学びの準備	ねらい This is a one year core course in English language teaching.	メッセージ This course will be conducted primarily in English. All readings and reports will be in English
	到達目標 This course is designed to prepare students for writing a graduate thesis in English language teaching. Special attention will be given to readings in the teaching of English as an international language with special reference to Okinawa, Japan and other Asian countries. Students will be free to choose a topic outside the area of teaching English as an international language.	

学びの準備	到達目標 This course is designed to prepare students for writing a graduate thesis in English language teaching. Special attention will be given to readings in the teaching of English as an international language with special reference to Okinawa, Japan and other Asian countries. Students will be free to choose a topic outside the area of teaching English as an international language.
-------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業の登録とオリエンテーション	文献講読
	2	英語教育学の専門語	文献講読
	3	英語教育学の語彙と定義問題	文献講読
	4	研究テーマと研究方法	文献講読
	5	研究企画書の書き方	文献講読
	6	国際語を通じた英語 (歴史背景)	文献講読
	7	国際語を通じた英語 (内円・外円・拡大円)	文献講読
	8	国際語を通じた英語教育 (バイリンガル教員)	文献講読
	9	国際語を通じた英語教育 (標準語)	文献講読
	10	国際語を通じた英語教育 (文化)	文献講読
	11	国際語を通じた英語教育 (教授法)	文献講読
	12	言語と文化 (異文化理解教育)	文献講読
	13	言語と文化 (日本の英語のテキスト)	中間発表の準備
	14	中間発表	文献講読
	15	前期の評価と纏める	文献講読
	16	後期の登録とオリエンテーション	文献講読
	17	言語とアイデンティティー	文献講読
	18	英語教育の言語とアイデンティティー (帰国生)	文献講読
	19	ネイティブ・ノンネイティブ・スピーカーの問題と英語教育 (ネイティブ)	文献講読
	20	ネイティブ・ノンネイティブ・スピーカーの問題と英語教育 (ノンネイティブ)	文献講読
	21	ネイティブ・ノンネイティブ・スピーカーの問題と英語教育 (日本)	文献講読
	22	日本の英語教育 (和製英語)	文献講読
	23	日本の英語教育 (JETプログラム)	文献講読
	24	日本の英語教育 (チームティーチング)	文献講読
	25	沖縄の英語教育の特色 (歴史の背景)	文献講読
	26	沖縄の英語教育の特色 (ハーフ)	文献講読
	27	アジアの英語教育のケーススタディー (中国)	文献講読
	28	アジアの英語教育のケーススタディー (韓国)	文献講読
	29	アジアの英語教育のケーススタディー (シンガポール)	発表の準備
30	最終発表	文献講読	
31	授業の評価と纏め		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>McKay, S. (2002). Teaching English as an international language. Oxford: Oxford University Press Publication Manual of the American Psychological Association (Sixth Edition)</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p>
学 び の 継 続	<p>評価</p> <p>口頭発表とレポートの質</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>言語教育特殊研究II</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語教育特殊研究 I D	通年	月 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	1年	syo@okiu.ac.jp 尚の研究室【5410】098-893-0785	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>研究計画に基づき、研究テーマ、目的、意義等を絞り込み、日本語教育分野の先行研究を読み込んでいく。研究を進めて行く上で必要となる一連の手法を習得し、具体的に組み立て、予備調査の実施および今後の計画案の詳細について考えていく。</p>	<p>日本語教育分野の先行研究について、その中でも特に自分の研究テーマに沿った先行研究の多くを学んでください。その際には、批判的に読み、問題点や課題も読み取って行ってください。2年の修士論文に関わる研究および執筆は、大変短いものであることを常に意識し、研究方法における綿密な計画と遂行を心がけましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教育分野の文献および先行研究をリストアップし、その内容・意義・課題をまとめ整理する。 先行研究を踏まえ、自分の研究テーマと内容を再検討したうえで、具体的な研究計画と遂行方法を探る。 研究の遂行において予備調査が必要な場合は、調査の実施と検証を進め、今後の本調査における改善点を探る。 本調査の計画と実施について、具体的な内容と遂行スケジュールを立てる。 研究や調査の実現性を確認し、独自性や有益性の検証を行っていく。 早めの調査研究計画および実施を通し、研究内容について十分に確認する。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義の目的および今学期の進め方の確認他）	
	2	研究計画の確認（研究テーマ、研究目的、研究結果の意義）	
	3	研究計画の作成	
	4	日本語教育研究について	
	5	テーマに沿った著作、論文、報告書等の参考文献リストの作成	参考文献リストの作成
	6	先行研究の読み込み（報告と考察）①	参考文献リストの作成
	7	先行研究の読み込み（報告と考察）②	参考文献リストの作成
	8	先行研究の読み込み（報告と考察）③	参考文献リストの作成
	9	先行研究の読み込み（報告と考察）④	参考文献リストの作成
	10	研究計画の見直し①（テーマの再確認、作業計画および修論概要の作成）	研究計画書作成
	11	研究計画の見直し②（構成の確認、論旨の一貫性、論文の独創性について考察）	研究計画書作成
	12	研究手法の検討、必要とされるステップの把握と確認	
	13	予備調査の実施と分析①	予備調査の準備
	14	予備調査の実施と分析②	予備調査の準備
	15	予備調査結果とまとめ	
	16	夏季休暇中の研究調査の計画	
	17	後期の流れの確認と研究計画の報告	
	18	夏期休暇中の進捗状況の報告	
	19	具体的な研究計画と手法	
	20	本調査の準備①	本調査の準備
	21	本調査の準備②	本調査の準備
	22	本調査の実施①	
	23	本調査の実施②	
	24	本調査の実施③	
	25	調査結果の分析と考察①	調査結果の分析
	26	調査結果の分析と考察②	調査結果の分析
	27	調査結果のまとめ①	調査結果のまとめ
	28	調査結果のまとめ②	調査結果のまとめ
29	研究の再確認		
30	修士論文の具体的な執筆に向けての確認		
31	修士1年のまとめ、および春季休暇中の研究遂行の計画の報告		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストや参考文献、関連資料等は、講義内で案内、または適宜配布します。基本的には、各自で参考文献や論文を探し、議論の場に提供することを心がけてください。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>①研究テーマに沿った専門書や先行研究を多く読み、問題意識をもつこと ②独創性、論理的一貫性をもった研究テーマの設定と研究計画をすること ③綿密な研究調査を心がけること ④専門教員の指導や同志との意見交換や議論を行い、複眼的な視点を養うこと</p>
学 び の 継 続	<p>評価</p> <p>出席状況、論文の読み込み、課題への取り組み、発表、論文研究計画段階から研究調査実施までの一連の流れにおける発表や報告等、総合的に評価を行う。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として「日本語教育学特論Ⅰ・Ⅱ」「日本語論文の書き方Ⅰ・Ⅱ」「社会言語学特論」「日本語学特論」「言語教育実習Ⅱ」等を履修し、専門分野における課題や問題意識を養うと同時に、多様な研究手法を身に付け、専門家として次の段階へと進んでいってほしい。今年度の研究活動の進捗状況をまとめ中間発表に備える。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語教育特殊研究ⅡC	通年	月6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 ヒョンジョン	2年	hlee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この特殊研究は、修士論文にかかわる研究の遂行および執筆段階と位置づけ、初年度の研究計画に基づいて行った予備調査および本調査を踏まえながら、より実証性のある分析手法で研究内容を考察しながら、修士論文としてまとめていく。	メッセージ 修士論文の執筆に向けて、自分の研究計画をもう一度練り直しながら、収集した調査データを実証的に分析・考察していきましょう。また、講義内外の口頭発表・討議・中間発表等を通して、自分の研究テーマに関する研究内容をより深めていくことで、修士論文を作成し、最終試問の合格につなげましょう。
	到達目標 ・研究調査として収集したデータを実証性ある方法を用いて分析することができる。 ・分析結果をまとめながら、独自性・倫理性などにおける問題チェックを行うことができる。 ・中間発表に向けて得られた研究成果をまとめることができる。 ・中間発表で得た質問・コメント等を参考に論文内容を再検討することができる。 ・論文内容の一貫性と学術性に検証を重ねながら、修士論文を完成させることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	春期休暇中の研究遂行状況の報告	
	2	前年度の研究成果の振り返りと今年度の研究計画を再確認	
	3	論文の全体構成① 問題の所在と研究背景	
	4	論文の全体構成② 先行研究との関連および独自性	
	5	論文の全体構成③ 研究の具体的な方法と結果	
	6	報告と討議① 論文構成における準備状況の確認	
	7	報告と討議② 論文構成の見直しの有無確認	
	8	報告と討議③ 論文構成の具体的なタイムスケジュール	
	9	研究調査の再検討① 追加調査およびデータ収集の再確認	
	10	研究調査の再検討② 収集データの分析方法の再確認	
	11	報告と討議④ データ分析における適合性と実証性	
	12	報告と討議⑤ 研究目標とデータ分析結果の整合性	
	13	中間発表の準備①	
	14	中間発表の準備②	
	15	中間発表を踏まえて、現時点での課題・計画を再検討	
	16	論文執筆指導① 論文執筆の概要	
	17	論文執筆指導② 目次設定と章立ての構成	
	18	論文執筆指導③ 研究背景・概要、結果の分析と考察	
	19	論文執筆指導④ 参考文献・引用文献等の扱い	
	20	報告と討議⑥ 執筆状況の報告	
	21	報告と討議⑦ 執筆内容の確認	
	22	報告と討議⑧ 論文執筆状況に応じた今後の流れを確認	
	23	論文執筆指導⑤ 書式全般（引用・表・図・注など）の点検	
	24	論文執筆指導⑥ 論文内容と分析結果の学術性・倫理性の再検討	
	25	論文執筆指導⑦ 研究のまとめと今後の課題	
	26	論文執筆指導⑧ 日本語教育への貢献と応用の考察	
	27	修士論文の仮提出	
	28	修正部分のチェック	
29	修士論文の本提出		
30	修士論文の最終試問および最終発表に向けて準備		
31	まとめ		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>研究テーマに応じて講義内で案内する。他に、研究遂行のために次の文献をお勧めする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐藤郁哉 (2008) 『質的データ分析法』新曜社 ・末田清子、抱井尚子、田崎勝也、猿橋順子 編 (2011) 『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版 ・藤村逸子、滝沢直宏 編 (2011) 『言語研究の技法 - データの収集と分析 -』ひつじ書房 ・細川英雄 (2012) 『研究活動デザイン-出会いと対話は何を変えるか-』東京図書
学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>修士論文の完成までは、①問題意識と関連の先行研究の分析、②社会貢献につながる研究テーマの設定と研究計画、③緻密な研究調査の遂行と分析、④研究調査の結果まとめ、⑤論文執筆と公表、という段階が必要です。皆さんは現在どの段階まで進んでいますか。自分の現時点をしっかり把握し、スムーズに修士論文の完成までつなげていけるよう頑張ってください。</p>
	<p>評価</p> <p><平常点50点> 参加度、討議、発表などを総合的に評価 <論文50点> 論文遂行の状況と論文作成結果を評価</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>研究成果をもとに、学会発表および学会誌への論文投稿等を目指しましょう。</p>

※ポリシーとの関連性

マスメディアを多角的・多面的に捉え学習することで、①深い英語・日本語力、②異文化理解能力、③学際的学習能力を身に着ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語とメディア	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-兼本 円	1年	b984332@11.u-ryukyu.ac.jp, または授業の前後に受付ます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>自分自身を取り巻く「言語環境」を念頭に入れて、今の自分、友人、知人、家族を捉えてみましょう。そうすることによって、言語データがより身近に感ずることができるようになります。気づいたことばを頻りにノートに記載しておいて下さい。マスメディアと言語を学ぶことはこれからの皆さんの研究をより深く、広く、刺激的な方向へ導いてくれるはずです。</p>	<p>私たちは自分のことばの主導権は自分だけであると、勘違いしていませんか。この授業では、視点を少々変えて、私たちのことばはマスメディアがコントロールしていると仮定しています。この視点から見逃されていたことばの成り立ちを一緒に考えてみましょう。この授業はきっと母語学習を深めることにもなり、また外国語学習にも新しい考えで取り組めるようになることでしょう。</p>
到達目標	<p>1. 自分のことばとマスメディアの相互関係を理解できる。2. 他人の使用していることばとマスメディアの相互関係が理解できる。3. レトリックとマスメディアの関係が具体的に分かるようになる。4. マスメディアで作られることばの製造課程が分かるようになる。5. 映画、その他の動画とことばの関係を説明できるようになる。6. 歌謡曲、ポップス、ことばの関係を具体的に説明できるようになる。7. マスメディアと言語の関係に関して独自の研究に取り組むことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	マスメディアとはどこからどこまでをカバーするのか。個人の捉え方を概	「マスメディア」の定義をする
	2	〃	あなたの定義は何でしょう
	3	マスメディアと娯楽	第3週のテーマの中身は何でしょう
	4	〃	〃
	5	〃	マスメディアの今と昔
	6	マスメディアと人間関係	人間関係はどのように作られているか
	7	〃	幼少の時から遡ってみよう
	8	〃	現在を考えてみよう
	9	新語は如何にして作られていくのか	なぜ新語はすたれるのか
	10	〃	死語とは本当に存在するのか
	11	ジャーナリスト、ニュースキャスターのことば	彼らの言葉の特徴とは
	12	〃	分かり易さ
	13	地方のことばとマスメディア	どこに地方があるのか
	14	映画とことばと非言語	映画が生み出すことば
15	〃	〃	
16	期末試験及びレポート提出		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書2冊を使用しますので、各自で購入して下さい。他は随時教員がプリントして持参します。1. 日本語のレトリック 瀬戸賢一 岩波書店 2014年 907円 2. メディアとことば (2) 特集 組み込まれるオーディエンス 三宅 和子他著 ひつじ書房 2005年 2592円</p>
----	---

学びの手立て	<p>学生の皆さんが意識できるマスメディアと教員（私）の捉えるマスメディアではかなり異なるところがあります。それを意見交換することは絶対必須条件です。皆さんにとりまして実りある授業にしたいので、是非、積極的な参加を心がけて下さい。教員からの答えを暗記するのではなく、皆さんと両者が益する時間を創造して行きましょう。質問・コメントをすることは話の流れを遮るものではありません。むしろ、授業に深さと広さを与えることとなります。理解できない場合には教員の説明不足であることが大いにあります。教員にとっても授業の活性化にもつながります。授業外で考えたこと、思いついたことでも結構ですので、是非教室に持ち寄って下さい。</p>
--------	--

評価	<p>レポート 20%, 期末試験70%, 平常点10% レポートは新語、死後に関するもので、2000字~2400字のものです。詳細は2回めのクラスで説明します。期末試験は全て論述式のものですが、授業と教科書から離れたものではありません。同じく2回目のクラスで詳細を説明いたします。平常点とは授業への積極的参加を意味します。これも授業で説明します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1) 社会学系の授業、言語学計の授業、心理学系の授業、応用言語学系の授業を全て履修している必要はありませんが、この中から2つを取っていることが望ましい。</p> <p>2) これからの言語環境は加速度を増して必ず変わって行きますので、それを念頭に入れて学習・研究を行って下さい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会言語学特論	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	1年	研究室を訪問するときは必ず事前に予約を取る。e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、社会言語学の諸分野に関する基礎知識、理論及び研究方法を学び、研究実践に繋げることを目的とする。	メッセージ ①使用言語：日本語・英語。②講義内容は受講者の興味やニーズによって変更する可能性がある。③受講者は課題として与えられた文献を精読し、レジュメにまとめて授業で発表する。論文要旨や疑問点などについてディスカッションを行う。
	到達目標 ①指定論文の輪読・発表・ディスカッションを通じて、学術論文を正確に読む・書く能力を養い、論理的・批判的思考力を育成する。 ②学んだ知識とスキルを自由な発想に基づき応用展開させる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	各回の授業ごとに指示する
	2	社会言語学とは（研究領域と調査方法）	”
3	ミクロ vs. マクロ社会言語学	”	
4	言語の選択	”	
5	バリエーション・変化	”	
6	言語とジェンダー・年齢	”	
7	言語と民族・地域性	”	
8	社会階層・言語意識	”	
9	スタイル・コンテクスト・レジスタ	”	
10	言語接触	”	
11	言語の維持・シフト・消滅危機	”	
12	言語政策と計画	”	
13	第二言語習得・異文化コミュニケーション	”	
14	研究の進め方	”	
15	研究計画（1）	”	
16	研究計画（2）	”	
	テキスト・参考文献・資料など 配布資料（英語・日本語）		
	学びの手立て ①課題提出期限の厳守。②毎回課題論文を読んだ上で議論に積極的に参加する。自分なりの意見をもって授業に挑むための準備を行うことが必要。③学期末レポートの発表と提出があるので、早めに準備を行い、先行研究を調べておくことを強く勧める。		
	評価 授業参加態度(30%)、レポート(40%)及び口頭発表(30%)による総合評価。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「マルチリンガル教育特論」、「英語学特論」、「日本語学特論」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多文化間教育特論	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井上 泉	1年	研究室 (9-510)またはメール	

学びの準備	ねらい 本科目では、多文化共生社会における教育、とくに翻訳通訳を通じた特徴や諸課題を主として採り上げる。	メッセージ
	到達目標 - 多文化共生社会における言語・文化の役割を理解している。 - 多文化共生社会でカギとなるコミュニティ翻訳通訳の基礎的な諸概念を理解している。 - 多様な文化的背景を有する人々との交流において、翻訳通訳の意義および役割を体験的に理解している。 - 国による言語・文化的な多様性の類似点・相違点を理解している。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	多文化共生社会とは	
	2	多文化共生社会と言語・文化	文献講読
	3	多文化共生社会における文化的な側面の教育	文献講読
	4	翻訳通訳の理論的メカニズム	文献講読
	5	翻訳通訳の理論的メカニズム	実習課題に各自取り組むこと
	6	翻訳実習	実習課題に各自取り組むこと
	7	通訳実習	実習課題に各自取り組むこと
	8	翻訳実習	実習課題に各自取り組むこと
9	通訳実習	実習課題に各自取り組むこと	
10	翻訳実習	実習課題に各自取り組むこと	
11	通訳実習	実習課題に各自取り組むこと	
12	翻訳実習	実習課題に各自取り組むこと	
13	通訳実習	実習課題に各自取り組むこと	
14	翻訳実習	プレゼンテーションの準備	
15	グループプロジェクト	プレゼンテーションの準備	
16	まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 指定教科書はありません。Moodleにて随時資料を配布します。		
	学びの手立て 翻訳・通訳では事前の十分なリサーチが必要になります。各自手間暇をかけて行ってください。		
	評価 授業への参加姿勢：10% 中間テスト：25% グループプロジェクト：40% 期末テスト：25%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語学特論	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲原 穰	1年	isjatuu07@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、現代日本語の文法論における様々なカテゴリーについて理解を深めることを目的とします。現在の日本語文法は、学校教育現場と研究との間で生じているズレなど、その位置づけに関して様々な問題を孕んでいます。関連文献を精読し、それぞれのカテゴリーに関する議論の流れをふまえた上で、問題点についての報告とディスカッションを行います。	活発な議論を期待しています。

到達目標	・日本語文法論に関する学問的動向を理解し、専門的な知識を身に付ける。
------	------------------------------------

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	おおむね以下のように進めていきます。	
	2		
	3	第1週 ガイダンス	
	4	第2週～4週 日本語文法論の基礎的事項の概説および確認	
	5	第5週 検討するカテゴリーの選択	
	6		
	7	第6週～14週 文献の精読	
	8		
	9	以下の項目に関する報告	
	10	・選択した内容に関する先行研究の分析	
	11	・疑問点、問題点	
	12	報告内容に関するディスカッション	
	13		
	14		
15	第15週 レポートについて		
16	なお、受講人数によって報告の回数を決定します。		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	・テキストは使用しません。講義内において資料を紹介、または配布します。

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の興味関心に基づいて報告対象とするカテゴリーを決めていきます。修士論文に関わらせのもよいです。 ・受講人数によっては複数回の報告を求める場合があります。
--------	--

評価	報告およびレポートの内容、討議への参加態度を総合的に判断します。
----	----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教育学特論 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 朋子	1年	tomokoo@nirai.ne.jp、授業前後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>多様化した日本語教育を社会・言語・文化・歴史等の観点から俯瞰し、日本語教育を必要とする多様な人々に対する日本語教授の方法論や第二言語習得理論に関わる文献や資料を博読していく。そして、発表や議論を交えながら専門的な知識を深め、自分なりの視点を構築し応用力を養っていく。</p>	<p>多文化共生社会における日本語教育では、新たな教育観や学習観、そして、新たな学習者と教師の関係作り、そして、社会との繋がりや関係作りが求められています。この講義を通して得た知識や実践を教育の現場で応用するためにも、また、研究を深めていくためにも、批判的に文献を読み込み、議論を重ね、積極的に学んでいきましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文献購読を軸に発表・議論を通して日本語教育の動向を探り、現状や課題を把握する。 ・ 文献を批判的に読み込みながら日本語教育の多様な領域における教育観を考察し、自らの教育観の構築に役立てる。 ・ 修士論文作成のための基盤的資料収集を目指す。 	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス	資料収集及び精読	
	2	言語・外国語・日本語・日本語教育とは	〃	
	3	日本語教育学のパラダイムシフト及び体系化	〃	
	4	日本語教育学と他領域との関わり	レジュメ作成・発表準備	
	5	国内の日本語学習者と日本語教育の拡がり	〃	
	6	発表①		
	7	世界の日本語教育の多様性	資料収集及び精読	
8	日本語教育と継承語教育他	レジュメ作成・発表準備		
9	発表②			
10	運用能力・コミュニケーション能力とは	資料収集及び精読		
11	外国語教授法と日本語教授法（変遷～課題まで）	〃		
12	地域の日本語教室の現状と課題	ミニ調査の準備		
13	地域の言語と日本語教育	調査及び発表の準備		
14	調査発表			
15	教師の役割と専門性			
16	まとめ			
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>随時プリントを配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立国語研究所 編(2006)『日本語教育の新たな文脈- 学習環境、接触場面、コミュニケーションの多様性-』アルク ・ 遠藤織枝(2011)『日本語教育を学ぶ 第二版-』三修社 ・ 神吉宇一編著(2015)『日本語教育の学のデザイナー-その地と図を描く-』 ・ 他 		
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義で扱う文献や資料の他に、日本語教育学に関連する文献を博く読み込むことで、日本語教育の全般における知識を深め多様な視点を身につけましょう。 ・ 関連研究会や学会などに関心を持ち、日本語教育研究の動向を把握しましょう。 ・ 講義を通して得た視点や知識を、自分の研究内容や手法にしっかり応用していきましょう。 		
	評価	出席率・授業への貢献度、及び文献・資料の読み込みとレジュメ作成(50%)、報告・発表・ディスカッション・ミニ調査・レポートなど(50%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	後期の「日本語教育学特論II」も受講しましょう。

※ポリシーとの関連性

応用可能な専門知識やスキルを身につけ、地域を含め国内外で活躍する日本語教師やその専門家をめざす。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教育学特論Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 朋子	1年	tomokoo@nirai.ne.jp、講義前後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「日本語教育学特論I」に続き、多様化した日本語教育に批判的な視点を持地ながらアプローチを試み、修士論文作成のための基盤的知識やスキルを習得していく。まず、日本語教育と言語観及び教育観を俯瞰し熟考したのち、地域社会やグローバル社会の課題を意識した日本語教育に繋げる。そして、ミニ実践研究や発表や議論を交えながら専門的な知識を深め応用力をつけていく。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文献購読を軸に発表・議論を通して日本語教育の動向を探り、現状や課題を把握する。 ・ 文献を批判的に読み込みながら日本語教育の多様な領域における教育観を考察し、自らの教育観の構築に役立てる。 ・ 修士論文作成のための基盤的資料収集を目指す。 	<p>多文化共生社会における日本語教育では、新たな教育観や学習観、そして、新たな学習者と教師の関係作り、そして、社会との繋がりや関係作りが求められています。この講義を通して得た知識や実践を教育の現場で応用するためにも、また、研究を深めていくためにも、批判的に文献を読み込み、議論を重ね、積極的に学んでいきましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	日本語教育と言語観及び教育観	資料収集及び精読
	2	世界の言語政策と言語計画	レジュメ作成・発表準備
	3	発表①	
	4	社会言語学と日本語教育学、そして社会文化能力とは	資料精読
	5	言語習得と言語学習のための学習ストラテジー	ミニ調査の準備
	6	教師と学習者スタイル、及び学習環境	調査及び発表準備
	7	調査発表①	
	8	異文化間教育・国際理解教育・多文化教育と日本語教育	資料精読
	9	年少者の日本語教育（学校教育法における日本語教育）	資料精読
	10	介護及び看護のための日本語教育	レジュメ作成・発表準備
	11	発表②	
	12	日本語教師とリソース	資料精読
	13	IT（コーパス他）と日本語教育	ミニ調査の準備
	14	実践研究の方法：接触場面・談話分析他の視点から	調査及び発表準備
15	調査発表②		
16	まとめ：日本語教室と社会・コミュニティ（多言語・多文化共生と日本語教育）		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>随時プリントを配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 斎藤ひろみ・佐藤郡衛 (2009) 『文化間移動をする子供たちの学び—教育コミュニティの創造に向けて』 ひつじ書房 ・ 国立国語研究所 編(2006) 『日本語教育の新たな文脈- 学習環境、接触場面、コミュニケーションの多様性-』 アルク ・ 鈴木孝明・白畑知彦(2012) 『ことばの習得- 母語獲得と第二言語習得』 くろしお出版
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文献購読や講義などに留まらず、関連研究会や学会などにも興味を持つことで、日本語教育の動向を把握しましょう。 ・ 講義を通して得た視点や知識を、自分の研究内容や手法にしっかり応用していきましょう。
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>出席率・授業への貢献度、及び文献・資料の読み込みとレジュメ作成(50%)、報告・発表・ディスカッション・ミニ調査・レポートなど (50%)</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「言語教育実習II」を通して実践的スキルを養いましょう。 ・ 「言語教育特殊研究」を通して修士論文作成に力を入れていきましょう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語論文の書き方 I	前期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高橋 美奈子	1年	minakot@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、日本語で修士論文を書くために必要な知識・技能を習得することを目的とする。具体的に前期では、論文の定義や実質的条件を学び、その上で、論文の形式的条件、例えば、論文の組み立て方や論文を書くために知っておくべきルールを学ぶ。最終的には自身の修士論文のテーマに沿った論文構成の作成を目指す。	メッセージ 修士論文の研究内容については、ゼミ指導教員の先生方にお任せしますが、論文の形式的な側面については、少しでも力になればと思います。修士論文提出までがんばりましょう。
	到達目標 1. 論文と他の文章の違いを理解できる。 2. 論文執筆までの手順がわかる。 3. 論文の構成や体裁など、論文の形式的なルールについて理解できる。 4. 論文を書くために必要な文献収集や図書館の使い方などがわかる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	論文とは何か
	3	論文作成のための具体的な手順
	4	論文の構成 1
	5	論文の構成 2
	6	論文を書くためのルール 1
	7	論文を書くためのルール 2
	8	論文を書くためのルール 3
9	論文を書くためのルール 4	
10	文献・資料の収集法 1	
11	文献・資料の収集法 2	
12	文献・資料の収集法 3	
13	論文構成の作成 1	
14	論文構成の作成 2	
15	論文構成の作成 3	
16	論文構成と論文執筆計画の提出	
実践	テキスト・参考文献・資料など 木下是雄 (1994) 『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫 斉藤孝 (1998) 『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部 浜田麻里 他 (1997) 『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版 新堀聡 (2002) 『評価される博士・修士・卒業論文の書き方考え方』同文館 道田泰司・宮元博章 (1999) 『クリティカル進化論』北大路書房 細川英雄 (2008) 『論文作成デザイン』東京図書	
	学びの手立て 基本的に欠席連絡や講義の質問等、連絡事項はメールでお願いします。欠席する場合には、事前にメールで連絡してください。また、欠席当日が課題提出日の場合には、メールでその翌日までに提出してください。	
	評価 1. 平常点 (60点) : 各回の課題提出、議論、発表などの評価 2. 最終レポート (40点) : 修士論文の構想レジュメならびに「論文とは何か」のレポートの提出による評価	

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期の「日本語論文の書き方II」はこの科目の継続科目です。「日本語論文の書き方II」では、前期に学んだことを実践していきますので、適宜、テキストや参考文献等をよく読み、復習をしておいてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語論文の書き方Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高橋 美奈子	1年	minakot@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、前期の「日本語論文の書き方I」に引き続き、日本語で修士論文を書くために必要な知識・技能を習得することを目的とする。具体的に前期で作成した論文構想に従って、論文の草稿（序論）を執筆することを目指す。さらに、修士論文の一部を研究会で発表あるいは紀要等の研究雑誌論文への投稿を目指す。	修士論文の研究内容については、ゼミ指導教員の先生方にお任せしますが、論文の形式的な側面については、少しでも力になればと思います。修士論文提出までがんばりましょう。

学びの準備	到達目標
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文に必要な先行研究の収集ができる。 2. 論文の形式的なルール（引用の仕方、論文構成、注の書き方など）に従って、論文を書くことができる。 3. 論文の序論を書くことができる。 4. 研究会や学会等の発表要領、紀要等の研究論文執筆要領を理解し、それに従った申請書を書くことができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	論文の構想発表	
	3	「研究テーマ」（テーマ設定の理由）を書いてみよう	
	4	「研究の目的と方法」を書いてみよう1	
	5	「研究の目的と方法」を書いてみよう2	
	6	「研究背景」（先行研究）を書いてみよう1	
	7	「研究背景」（先行研究）を書いてみよう2	
	8	「研究背景」（先行研究）を書いてみよう3	
	9	「はじめに」と「序論」をまとめてみよう1	
	10	「はじめに」と「序論」をまとめてみよう1	
	11	「はじめに」と「序論」をまとめてみよう1	
	12	扱うデータを紹介してみよう	
	13	データの分析をしてみよう1	
	14	データの分析をしてみよう2	
15	データの提示の仕方を工夫してみよう		
16	論文の「序論」の発表・提出		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫 斉藤孝（1998）『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部 浜田麻里 他（1997）『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版 新堀聡（2002）『評価される博士・修士・卒業論文の書き方考え方』同文館 道田泰司・宮元博章（1999）『クリティカル進化論』北大路書房 細川英雄（2008）『論文作成デザイン』東京図書</p>

学びの実践	学びの手立て
	基本的に欠席連絡や講義の質問等、連絡事項はメールでお願いします。欠席する場合には、事前にメールで連絡してください。また、欠席当日が課題提出日の場合には、メールでその翌日までに提出してください。

学びの実践	評価
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平常点（60点）：各回の課題提出、議論、発表などの評価 2. 最終レポート（40点）：修士論文の「序論」および研究会発表要旨・紀要等への研究要旨の提出による評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
	次なるステージは、やはり修士論文の執筆です。データの収集・分析・考察などかなり時間を要しますが楽しい作業です。がんばってください。

科目基本情報	科目名 マルチリンガル教育特論	期別	曜日・時限	単位
	担当者 李 イニッド	前期	水6	2
	李 イニッド	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	研究室を訪問ときは必ず事前に予約を取ること。e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 多言語教育のあり方をめぐって、その可能性や諸課題も含め、総合的に考察することを目標とする。多言語教育の理論と実践を学び、様々な多言語社会の事例研究や諸問題について考える。	メッセージ ①使用言語：日本語・英語。②講義内容は受講者の興味やニーズによって変更する可能性がある。③受講者は課題として与えられた文献を精読し、レジュメにまとめて授業で発表する。論文要旨や疑問点などについてディスカッションを行う。
	到達目標 マルチリンガル教育に関する論文や研究資料の輪読・発表・ディスカッションを通じて、学術論文を正確に読む・書く能力を養い、論理的・批判的思考力を育成する。また、学んだ知識とスキルを自由な発想に基づき応用展開させる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	各回の授業ごとに指示する。
	2	用語の定義	”
	3	マルチリンガル教育とは	”
	4	マルチリンガル育成の理論的モデル	”
	5	転移とマルチリンガル育成	”
	6	マルチリンガル育成を支える心理的要因	”
	7	マルチリンガル育成を支える社会的・文化的要因	”
	8	教育現場における多言語化の現状	”
9	教育現場における多言語化の課題	”	
10	多言語社会と言語教育政策	”	
11	マルチリンガルとアイデンティティ	”	
12	マルチリンガルの言語と認知	”	
13	多言語維持	”	
14	マルチリンガル教育の貢献	”	
15	研究計画（1）	”	
16	研究計画（2）	”	
	テキスト・参考文献・資料など 配布資料（英語・日本語）		
	学びの手立て ①課題提出期限の厳守。②毎回課題論文を読んだ上で議論に積極的に参加する。自分なりの意見をもって授業に挑むための準備を行うことが必要。③学期末レポートの発表と提出があるので、早めに準備を行い、先行研究を調べておくことを強く勧める。		
	評価 授業参加態度(30%)、レポート(40%)及び口頭発表(30%)による総合評価。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「社会言語学特論」、「英語学特論」、「日本語学特論」
-------	---

※ポリシーとの関連性 ヨーロッパ連合の形成によって、多言語、多文化の共生社会を求め
ていかなばならないヨーロッパを知ることは、異文化理解を促す。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ヨーロッパ文化特論	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-漆谷 克秀	1年	授業終了後の受け付ける。	

学びの準備	ねらい 「多様性の中の統一」という理念でヨーロッパ連合の試みが実行されている。戦争の世紀を経てきた反省から「対話」による平和の希求、「文化的多元性の尊重」、そのような理念を支える文化的、思想的、地域的基盤を考える。	メッセージ 現代社会は、議会制民主主義、市場経済にもとづく資本主義の枠組のうちに成立している。この枠組を形成し、先導してきたのがヨーロッパである。現在のヨーロッパの取り組みを考えることは、将来の日本の形成につながっていくと認識できるでしょう。
	到達目標 「多様性の中の統一」という理念によるヨーロッパ連合の形成は今も続いている。そのために、どのような努力が払われてきたか、また、現在もどのような努力が払われているか、を知る。其れを可能とした文化的、宗教的、地域的な基盤とその差異を併せて知るようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義説明、オリエンテーション
	2	「ヨーロッパ」の概念の変遷、ヨーロッパを再考
	3	EUの歴史と現在
	4	ヨーロッパ諸言語の歴史的親近性
	5	EUにおける多言語主義
	6	ヨーロッパ諸文化の神話と民話
	7	近代ヨーロッパ社会における音楽と文学
	8	二大思想潮流から辿るヨーロッパ思想史①
9	二大思想潮流から辿るヨーロッパ思想史②	
10	ヨーロッパにおけるキリスト教の変遷	
11	キリスト教諸宗派の比較	
12	19世紀末からのヨーロッパのモダニズム芸術の誕生と変遷	
13	女性芸術家たち、ジェンダーの視点	
14	日欧交流史	
15	ヨーロッパとはなにか、EUの試みは成功するか	
16	レポート提出	
	テキスト・参考文献・資料など 『ヨーロッパ学入門（改訂版）』武蔵大学人文学部ヨーロッパ比較文化学科編（朝日出版）	
	学びの手立て 「なにか?」、「なぜか?」という知的な好奇心を持ってください。	
	評価 授業への貢献度、学期末のレポートで評価。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------